

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2773100827
法人名	医療法人 清翠会
事業所名	まきグループホーム
所在地	大阪市旭区生江2-14-24 (電話) 06-6929-5355

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪市北区天満橋2丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年2月6日	評価確定日	平成20年4月14日

## 【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤 8 人, 非常勤 20 人, 常勤換算 24 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	1~3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,880 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	11 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低 69 歳	最高 99 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧ヘルスケアグループ医療法人清翠会牧病院・大森歯科診療所
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

牧ヘルスケアグループとして医療、福祉を展開する地域に根ざした大型医療法人が運営するグループホームで老人保健施設と併設されています。ホーム長が医師、管理者が看護師であり、病院による24時間対応可能な体制、また、訪問看護師や様々な科の医師の往診も支援されており、入居者、家族にとって安心した体制が取られています。管理者は入居者の尊厳を大切にされ、プライバシー確保、接遇マナーの職員意識の向上を図る取り組みに力を入れられており、日々のケアに活かされています。職員は一人ひとりの方針である「ゆったりとした居心地の良い場所」を実現すべく、入居者一人ひとりの意思を尊重し、出来る事を通しての役割や楽しみ事を支援しながら一緒に過ごされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題については職員で話し合い、改善に向けて取り組まれています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については管理者と各ユニットの主任が中心になり、職員の意見を聞きながら作成されています。また改善課題については、改善計画シートを活用し、取り組まれています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、自治会長、民生委員、地域包括センターの方が出席する運営推進会議では、ホームの取り組みについての報告を通してホームを知ってもらおう場としたり、地域行事の案内をしてもらったり、災害時についての協力をお願いをしたり、意見交換を行いながら地域交流に結びつく良い機会としています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームに来られた際に何でも言いやすい雰囲気づくりに努めており、年に2回の家族会や運営推進会議等でも機会をつくり、家族会ではアンケートも取っています。また、意見、苦情等を表す機会を大切に考え、直接法人に届くハガキの設置もされています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	買物や外の掃除を通して近所の方に挨拶したり、近隣の小学校の運動会を観に行ったり、自治会長や民生委員にホーム行事へ参加や地域行事を教えしてもらったり、保育園児に来てもらう等地域の方と交流を積極的にしています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別にグループホーム独自の理念と方針が掲げられており、ホームと地域との関係性についての内容も盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念・方針に基づいて管理者、職員は日々のケアに取り組んでいる。ケアの方向性を合わせる事を大切に考えられており、入居者の思いや、気づきについて共有しながら理念、方針の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買物や掃除を通して近所の方に挨拶したり、近隣の小学校の運動会を観に行ったり、自治会長や民生委員にホーム行事へ参加や地域行事を教えてもらったり、保育園児に来てもらう等地域の方と交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題については職員で話し合い、改善に向けて取り組まれている。また、今回の自己評価については管理者と各ユニットの主任が中心になり、職員の意見を聞きながら作成されている。	○	日々のケアを振り返る機会になり、ケアに自信を持つことにもつながるので、自己評価は職員全員で取組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長、民生委員、地域包括センターの方が出席する運営推進会議では、ホームの取り組みについての報告を通してホームを知ってもらう場としたり、地域行事の案内をしてもらったり、災害時についての協力をお願いをしたり、意見交換を行いながら地域交流に結びつく良い機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員や区の職員とは電話で問い合わせを行ったりしているが、連携までは至っていません。	○	今後、運営や実情等を積極的にホーム側から伝えるなど、働き掛けを行うことが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態などはホームに来られた際や電話にて報告している。また写真入りの季刊誌も発行し、行事の際の様子なども伝えている。金銭管理については、毎月出納を確認し、家族がホームに来られた際にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに来られた際に何でも言いやすい雰囲気づくりに努めており、年に2回の家族会や運営推進会議等でも機会をつくり、家族会ではアンケートも取っている。また、意見、苦情等を表す機会を大切に考え、直接法人に届くハガキの設置もしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係でのケアを大切に考えられており、やむを得ない場合もあるが、最小限の異動に留めている。新しい職員については、一緒に入居者と過ごしてもらう時間を増やしたり、入職後最初の夜勤は2人体制にするなど入居者、職員に配慮した工夫をしている。また、管理者との個人面談も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム独自の研修年間計画を立てて、法人の内部研修やユニット合同の勉強会などがあり、法人内での中堅研修、認知症研修などの外部研修も受講し、段階に応じた研修の機会が確保されている。受講後は報告書を作成し、資料と共に職員が閲覧出来る体制にしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会に加入しているが、地域福祉や介護サービスのネットワークづくりが不十分である。	○	地域のグループホームネットワークへの加入・参加を通して、勉強会や交流会にて情報交換や、意見交換をしサービスの向上を図る事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらい、他の入居者と一緒に過ごす時間を持ってもらっている。ホーム側から家にも訪問し、家での様子や状況など家族と相談しながら情報収集を行ない、安心して入居してもらう環境づくりを支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で料理を共につくる喜びや、テレビを観ながら一緒に笑ったり、懐かしい曲を一緒に歌ったり、入居者から教えてもらう事もあり、支え、支えられる関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を通して入居者の思いを把握し、ケース会議で話し合ったり、介護記録に必ず記録して職員間で共有をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の意見を聞き、看護師やPTIにも意見を求め、一人ひとりの生活にそった介護計画が作成されている。職員の意見はカンファレンスにて反映されているが、一部の職員の意見となっている。	○	現在、全職員の意見を収集する体制を検討されている。その実施を通して気づきを反映する事が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの状態に合った介護計画が作成されており、3ヶ月～6ヶ月の見直しをしている。計画にそった記録もされており、モニタリングについては、家族の意見も求めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物や散歩などの個別外出や通院介助など、その時々要望に応じて対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明をして本人、家族の希望にそったかかりつけ医の支援をしている。ホーム長が医師であり、毎週往診にも来られており、病院にて24時間の対応も可能であり、訪問看護も受け入れている。また、毎週の訪問歯科による口腔チェックや、精神科の定期往診、耳鼻科、皮膚科の往診も連携、支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの方針を説明している。その方の状態に合わせて、家族の思いを聞きながら、医師、職員と相談し、支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を大切に考えられており、言葉遣いも丁寧で、基本的にさん付けで呼んでいる。接遇に関する研修にも力を入れており、また、毎年接遇に関する目標を設け、毎月接遇チェック表を付けて自己評価、接遇委員の評価を行い、最終的には管理者の評価もあり、主任も委員により評価を受ける体制がとられ徹底されている。個人情報については施錠出来るところで保管され、メモ用紙も使用を禁止している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったり、待つことを念頭に置きながら、現状を把握し、その方に合ったペースを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼は職員で希望を聞いたりしながら献立を決めて、毎日一緒に買物へ行って、調理や味見、配膳、食事、後片付けを一人ひとりの役割、力を大切にしながら一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ希望やタイミングに合わせて入浴してもらっており、夜間入浴も支援されているが、週2日の入浴となっている。	○	一人ひとりのこれまでの生活習慣や好みの再検討を行い、職員で話し合いながら工夫することが期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯など日常生活の中で役割を持ってもらっている。畑仕事、裁縫、お笑い番組観賞、おやつづくり、歌など生活歴や趣味を活かした支援を一人ひとり実施している。また、スーパー銭湯に行ったり、回転寿司を食べに行ったり楽しみ事も支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそって毎日の買物や散歩に出掛けている。庭での日向ぼっこやゴミ捨てなど少しでも戸外に出て気分転換をしてもらえるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	国道に面しているため、安全と防犯のために同意を得て、鍵を掛けている。外へ出たい希望があれば、できるだけ一緒に行くように支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による避難訓練とホーム独自の訓練を年に2回実施されている。運営推進会議で自治会長、民生委員に参加してもらい働きかけをしており、次回参加される予定である。隣の老人保健施設との協力体制もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録しており、水分量はなるべく補給できるように支援されており、必要な方のみ記録をしている。栄養バランスにも配慮して献立が立てられており、夕食は法人の管理栄養士が立てたメニューを提供している。入居者の状態や好みに合わせて工夫しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く、明るいきりびんぐには入居者が作成した季節毎の作品や飾りが飾られていたり、ソファや椅子を工夫して配置し、気の合う方や一人で過ごせる場所も確保されている。畳スペースには掘り炬燵があり、お雛様も飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら、馴染みの椅子やテーブル、テレビや置物などを持ってきてもらい、写真や作品なども飾って、本人が居心地良く過ごせる居室づくりをしている。		